

エコアクション21 環境経営レポート

2022年度版 対象期間 2022年4月～2023年3月



目次

1. 会社概要	…	1
2. 組織図・認証の範囲	…	2
3. 製品・施工事例紹介	…	3
	…	4
	…	5
	…	6
4. 環境への取り組み	…	7
	…	8
	…	9
5. 環境経営方針	…	10
6. 2022年度環境経営目標・環境経営計画書		
6-1 2022年度目標と実績及び次年度目標(長野工場・本社・各営業拠点)	…	11
6-2 中長期目標(長野工場・本社・各営業拠点)	…	12
6-3 2022年度目標と実績及び次年度目標(千葉工場)	…	13
6-4 中長期目標(千葉工場)	…	14
7. 環境目標達成のための計画と実績	…	15
7-1 環境目標達成のための計画と実績(長野工場・本社・各営業拠点)	…	15
7-1 環境目標達成のための計画と実績(千葉工場)	…	15
8. 環境経営計画に基づき実施した取組内容	…	16
	…	17
	…	18
	…	19
9. 環境関連法規など遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反訴訟の有無	…	20
10. 2022年度 代表者による全体の評価と見直し・指示	…	21

1. 会社概要

1) 名称及び代表者名

エア・ウォーター・エコロッカ株式会社
代表取締役社長 渡邊 和哉

2) 所在地

本社・
●東日本営業グループ
〒106-0031 東京都港区西麻布2丁目24番11号 麻布ウエストビル

●西日本営業グループ
〒550-0005 大阪市西区西本町2丁目3番10号 西本町インテスビル

●北日本営業グループ
〒060-0003 北海道札幌市中央区北3条西1丁目2番地 サンワビル

長野工場 〒381-0012 長野県長野市若穂保科3440番地9

千葉工場 〒299-2414 千葉県南房総市富浦町深名427-1

3) 環境管理責任者 及び 担当者連絡先

環境管理責任者 : 長野工場長 宮本 敏明

環境事務局 : 長野副工場長 松隈 信宏

連絡先 : TEL 026-282-0033
: FAX 026-282-0011

4) 事業内容

木材・プラスチック再生複合材の製造 及び 販売
合成木材・合成樹脂のコンパウンドを生産販売

5) 事業規模/2022年度

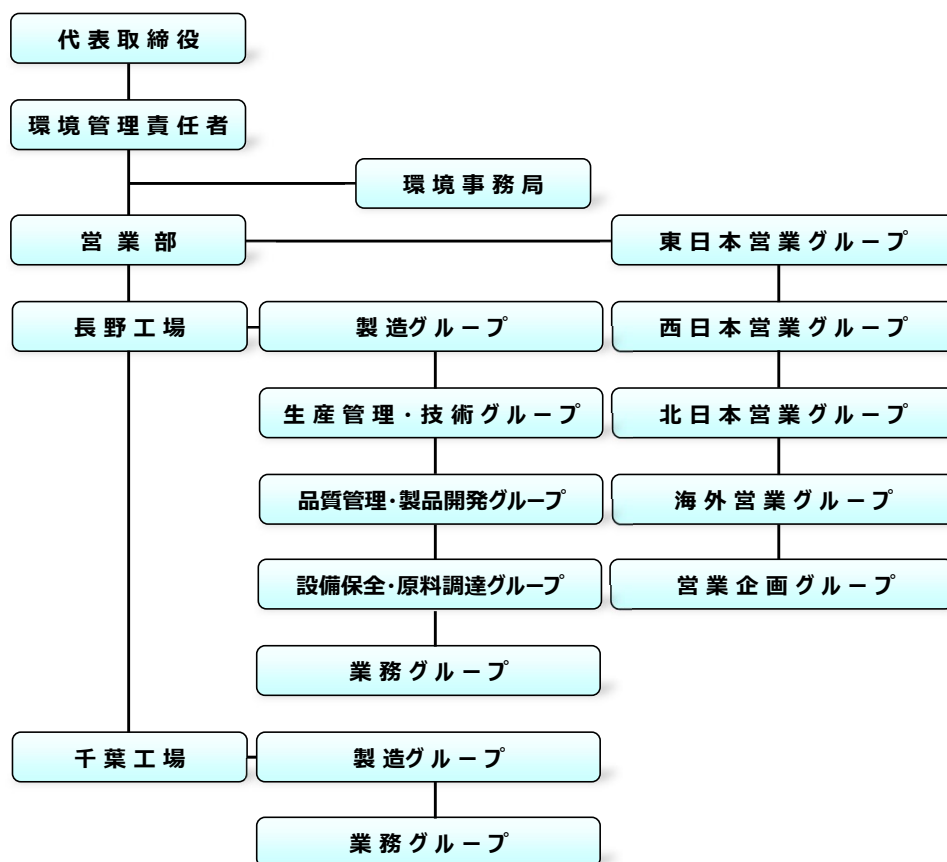
	単位	2022年4月～2023年3月
従業員数	人	60
売上高	万円	267,560
床面積	m ²	3,951(長野工場)/479(千葉工場)
生産高	万円	51,705(長野工場)/20,907(千葉工場)
生産量	t	2,365.1(長野工場)/594.5(千葉工場)
運搬量	t	2,128.5(長野工場)/594.2(千葉工場)
運送距離	km	106,425(長野工場)/31,075(千葉工場)

6) 事業年度 4月～翌年3月 (今回の環境経営レポートの対象期間は、2022年4月～2023年3月)

2 組織図・認証の範囲

1) 組織図

エコアクション21 組織図・認証範囲



 エアウォーター・エコロック株式会社

2023年3月31日 付

2) 認証・登録の範囲

本社および全事業所・全事業活動

3) 認証・登録の範囲

2022年4月1日～2023年3月31日

4) 発行日

2023年11月11日

3. 製品・施工事例紹介

ベンチの様々な特徴と 曲げ加工による施工のご紹介

ベンチでは、座面にエア・ルーバーを採用しており、表面に人工再生木、芯材にアルミ角パイプを使用しています。
アルミ材を使用していることで耐久性に富んだエクステリア設計が可能です。
特徴として、エア・ルーバーにより、屋外でも色褪せる事のない高耐候性や、設置後30年に相当する過酷テストでも再生木層とアルミ層の剥離やクラック、腐所的な劣れが発生しない点などが挙げられます。また、アルミ材の特性を活かす事により、直線・R曲げ・単独・連続と構想通りに外観をアレンジさせる事が出来ます。

【自社製品】（設置直後）



(エア・ルーバーを使用し、見栄える仕上がりになっています。)

【自社製品】（設置後6年経過）



(経年劣化による破損や色褪せることなく綺麗な状態を維持しています。)

【他社製品・天然木】（設置後2年弱）



(中心から放射状に亀裂が入っている事や塗装が剥がれています。)

注目ポイント！！

比較写真を見比べてみると差は一目瞭然です。
他社製品は、経年劣化によりトゲ、ササクレが発生し利用者が怪我をしよう恐れがあります。また、定期的な塗装も必要です。
しかしエコロカは、長期間使用してもトゲ、ササクレが発生する事が無く、さらに塗装等のメンテナンスを必要としません。

木の風合いに加工性が加わる事で 環境に適した心地よい空間を提供致します。

エア・ルーバーの優れた加工性により様々な場面で、意匠性を発揮する事が出来ます。



おりがみ公園 座板Rベンチ
(ルーバーR曲げ)



有明ガーデン サークルベンチ
(ルーバーR曲げ)



有明ガーデン 箱型ベンチ
(ルーバーR曲げなし)

【再生木造作ベンチ】



有明ガーデン ベンチ&テーブルセット



有明ガーデン ステージベンチ



有明ガーデン 積み木ベンチ



有明ガーデン 箱型ベンチ



徳心学園 座板Rベンチ



ミチノテラス豊洲 斜め田付ベンチ



横浜ゲートタワー 一体型ベンチ
(ルーバーR曲げあり)



東急プラザ 六角ベンチ

【BIO FURNITURE ECOROCA Edition】



サークルベンチ
(角パイプ仕様)



サークルベンチ
(丸パイプ仕様)



有明ガーデン サークルベンチ
(ルーバーR曲げ)



有明ガーデン 箱型ベンチ
(ルーバーR曲げなし)



背もたれベンチ



L型ベンチ

エコロッカが採用された物件のご紹介 赤坂中学校、中之町幼稚園でエコロッカが採用されました

東京ミッドタウンに隣接する小中一貫教育校の港区立赤坂中学校と同一敷地内にある中之町幼稚園にエコロッカが採用されました。施設が隣り合う環境を生かし「幼・小・中一貫教育」を推進する新設校舎です。

港区教育ビジョンに掲げられた「夢と生きがいを持ち、自ら学び、考え、行動し、未来を創造する子供」の実現に向け持続可能な取り組み（SDGs）の一つに、エコロッカが目標とする11「住み続けられるまちづくりを」が推進されています。エコロッカが提供するリサイクル製品（サステナブル素材）を教育現場に取り入れて頂くことで「見て、楽しんで、学んで、体験して」多くの人にお互いの取り組みを知ってもらうよい機会になりました。これからも多業種とのコラボレーションで幅広くSDGsの取組みを広げて参ります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



エコロッカの目標



物件： 赤坂中学校 使用数量： 5100m 使用材料： エア・ルーバー 特注サイズ 75×75 Sb
中之町幼稚園 1170m エア・ルーバー 特注サイズ 55×55 Sb
所在地：東京都港区赤坂9-2-3（赤坂中学校）、東京都港区赤坂9-2-26（中之町幼稚園）

ビルが建ち並ぶ学び舎に、天然木の風合いある新建材

採用されたエア・ルーバーは表層にエコロッカの人工再生木材とアルミ芯材からなる建材です。上品な天然木の風合いと軽量かつ強靭さをあわせ持ち、耐久性や耐候性にも優れ長期間にわたり美観を保ち続けます。又、高強度でありながら加工性に優れています。直線のみならず曲線にも対応、断面の豊富さやカラーバリエーションにも優れています。



▲赤坂中学校のバルコニーに遮光や目かくしを考えたエア・ルーバーが配置されています。



▲中之町幼稚園の入口



▲中之町幼稚園の屋上

エコロッカが採用された物件のご紹介 グランドーム千葉富津でエコロッカが採用されました

千葉県富津市に誕生したグランドーム千葉富津は、全20棟の関東最大級のグランピングリゾートにエコロッカは各棟の屋外デッキに使われています。

グランドーム千葉富津は、SDGsへの賛同企業として循環の構築に向けて取り組まれています。私たちエア・ウォーター・エコロッカも、優れたリサイクル製品を社会に提供することで、持続可能なまちづくりや住みよい住環境の実現に向けて取り組んでいます。

同じ志を持つ企業とが手を取り合い、ビジネスを通じて環境・経済に持続可能な社会を築き上げたいと思います。



物件名：グランドーム千葉富津 グランドオープン：2022年8月 所在地：千葉県富津市湊1660-3
使用材料：人工再生木材DK2020V2 約1700㎡

住み続けられるまちづくりを

潤いのある豊かな生活環境の創造、個性的で活力ある地域社会の実現、
国民経済及び地域社会の健全な発展



ウッドデッキのリニューアルシステムのご紹介

再生木デッキは、腐らない・シロアリに対して非常に強い・天然木のように定期的な防腐剤又はペンキを塗布する必要が無い・メンテナンスが最小限で済む、という素材です。

しかし、長期間屋外に放置すると、太陽光・雨・大気汚染等により、汚れが定着し、簡単なクリーニングではきれいになりません。そこで、本日よりご紹介するのは、長年使用したウッドデッキの表層を3ステップのメンテナンスプログラムによって美しい外観を取り戻すリニューアルシステムです。長期間快適にご使用していただく為には、日頃のお手入れと定期的なメンテナンスがとても重要になります。

【お手入れ前のデッキ】



長年の使用によりウッドデッキ表面に汚れが大量に付着し、簡単には落とせない汚れとなっています。

【お手入れ後のデッキ】



リニューアルシステムの研磨、洗浄、保護塗装によって、デッキ本来の美しさが蘇りました。

【リニューアルシステムのメリット】

1. 張り替え工事に比べ低コスト！
2. 張り替え工事に比べゴミの発生が少なく、環境に優しい！
3. 最新の技術により短工期を実現。長期休み以外でも施工可能！



3ステップ リニューアルシステムの作業フロー

天然木デッキ及びエコロッカ以外の再生木デッキにも施工が可能です。

※ウッドデッキの状態によっては、施工できない場合もございます。

ステップ1: 研磨



専用機械を使用し、汚れたデッキの表面を薄く削り落とします。同時にダスト回収機がサンディングした粉塵を回収するので、養生作業が楽になります。周辺環境への負荷を抑えた工法です。

ステップ2: 洗浄



洗浄液を塗布し、ブラシ清掃機でデッキ表面をブラッシングします。洗浄・汚水回収を同時に行う為、作業時間を短縮できます。専用機械を使用することで効率よくスピーディーに作業できます。

ステップ3: 塗装



保護塗装剤を2回塗布し、1日程度乾燥させます。使用する保護剤は浸透性保護剤なので塗ムラになりにくく、自然色に仕上がります。また、撥水性・撥油性がよく、水分による汚れの侵入や腐食・ぬめり等を抑制できます。

4. 環境への取り組み

木材・プラスチック複合材 (WPC)

ECOROCA[®] EXCELLENT WOOD-PLASTIC COMPOSITES

**循環型社会へ、
豊かな可能性を秘めた新素材。**

廃棄物として発生した「木材」と「プラスチック」を原料にして生まれる新素材、
それが「木材・プラスチック複合材 (WPC)」です。

WPCは、リサイクル原料を使用しているだけでなく、それ自体が何度でも
リサイクル可能な環境配慮型新素材。

木材とプラスチック双方の優れた特質を兼ね備えているので、エクステリアや
インテリア材料などの多方面で使用されています。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

エア・ウォーター・エコロッカ株式会社とSDGs



11.住み続けられるまちづくりを
都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする



12.つくる責任つかう責任
持続可能な消費と生活のパターンを確保する



15.陸の豊かさを守ろう
陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る

エア・ウォーターは、地球資源循環カンパニーとして、工業・産業用ガス、ケミカル製品をはじめ多岐にわたり環境負荷低減への新技術、新商品の研究開発を推進しております。

循環型社会へ、 豊かな可能性を秘めた新素材

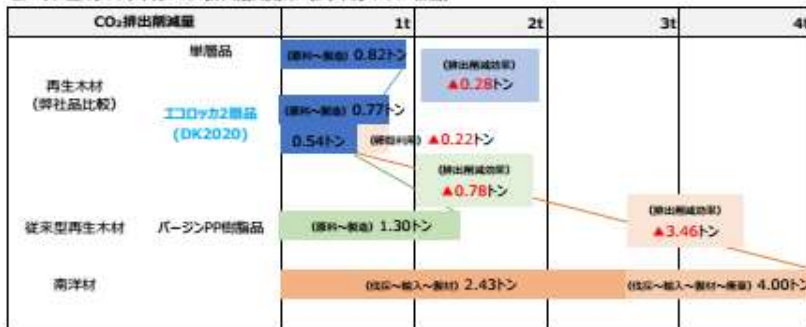
エコロッカを使用するとCO₂排出削減に貢献できます。

【使用終了後の廃棄まで含めた比較】

		トンあたり排出量	計
南洋材	伐採～製品化	2.43t-CO ₂ /t	4.00t-CO ₂ /t
	焼却破棄	1.57t-CO ₂ /t	
従来型再生木材	原料～製品製造	1.30t-CO ₂ /t	1.30t-CO ₂ /t
	廃棄時→リサイクル	0	
エコロッカ単層品	原料～製品製造	0.82t-CO ₂ /t	0.82t-CO ₂ /t
	廃棄時→リサイクル	0	
エコロッカ2層品 (DK2020)	原料～製品製造	0.54t-CO ₂ /t	0.54t-CO ₂ /t
	廃棄時→リサイクル	0	
エコロッカ2層品(DK2020)CO ₂ 排出削減量	対 南洋材		3.46t-CO ₂ /t
	対 従来型再生木材		0.76t-CO ₂ /t
	対 エコロッカ単層品		0.28t-CO ₂ /t

※使用終了時の廃棄まで含めた南洋材、従来型再生木材(バージンPP樹脂品)およびエコロッカ単層品のCO₂排出量比較

□1トン当たりのデッキ材 CO₂排出削減効果 (デッキ約4.5m相当)



□織柄

エコロッカ2層品 (DK2020)

・デッキ1トン製造時当たりのCO ₂ 排出量	0.76 t
・デッキ1トン製造時当たりのフィルター利用によるCO ₂ 削減量	▲0.22 t
	0.54 t

エコロッカ単層品

0.82 t

従来型再生木材 (バージンPP樹脂品)

1.30 t

天然木材

南洋材

・ (伐採～輸入～製材) によるCO ₂ 排出量	2.43 t
・ (廃棄/焼却) によるCO ₂ 排出量	1.57 t
	4.00 t

※エコロッカ2層品(DK2020) 対エコロッカ単層品 対従来型デッキ 対南洋材

CO ₂ 排出量削減効果	▲0.28	▲0.76	▲3.46 t
-------------------------	-------	-------	---------

5. 環境経営方針


— 理念 —

私たち、エア・ウォーターグループの事業の源。それは「空気と水と共に生きるか」ということ。これまで事業のフィールドを広げながら、環境にも優しく、人にも優しいこたえを追究しカタチにしてきました。ECOROCAは、そんな私たちの理想に限りなく近いサステブルな素材です。空気も水も、人々に役立ったあとは、そっと自然に戻ってもらう。清浄な根源の姿への回帰。これが私たちの未来への責任だと深く考えます。自然界の摂理や生命の循環サークルに立脚した企業へ、私たちは地球資源循環カンパニーを目指します。

— 方針 —

- 1 . 事業活動において、自然豊かな周辺環境が維持継続できるよう法令順守に努めます。
- 2 . 事業活動において、発生する二酸化炭素を抑制し削減に努めます。
- 3 . 事業活動において、廃材を原料とし再利用するなど廃棄物の削減に努めます。
- 4 . 事業活動において、使用水の循環利用により排水量の抑制に努めます。
- 5 . 事業活動において、再生可能な製品の流通により循環型社会の構築に努めます。
- 6 . 事業活動において、環境経営の断続的な改善により循環負荷低減に努めます。

制定日：2020年09月01日

 **エア・ウォーター・エコロック株式会社**

代表取締役社長 渡邊 和哉

6. 2022年度環境経営目標・環境経営計画書

6-1 2022年度目標・実績及2023年度目標(長野工場・本社・各営業拠点含む)

判断…○：達成 X：未達成

環境経営目標	単位	2019年度 (基準年度)	2022年度			2023年度 目標
			目標	実績	判定	
1 二酸化炭素排出量削減 (総量)	Kg-CO ² /年 ※1	1,557,512	1,479,637	1,379,265	○	1,432,911
			-5%	-11%		-8%
	1-1 電気使用量の削減	kWh/年	3,411,863	3,241,270	○	3,138,914
		Kg-CO ² /年	1,542,162	1,465,054		1,418,789
	1-2 ガソリン・ 軽油使用料の 削減	L/年	6,617	6,286	○	6,087
Kg-CO ² /年		15,350	14,583	14,122		
2 一般廃棄物の削減	kg/年	2,261	2,148	747	○	2,103
			-5%	-67%		-7%
産業廃棄物の削減	t/年	285	271	245	○	265
			-5%	-14%		-7%
3 水道水の削減	m ³ /年	6,726	6,390	1,637	○	6,255
			-5%	-76%		-7%
4 コピー用紙使用量の削減	枚/年	236,500	224,675	118,000	○	219,945
			-5%	-50%		-7%
5 エコロッカ製品サービス	件/年	10	35	24	×	40
			350%	240%		400%
6 工場周辺の環境整備	件/年	1	1	1	○	1
			100%	100%		100%

※1：電気二酸化炭素実排出係数は、中部電力株式会社の0.000452t-CO²/kWhを引用。

・基準年度2019年とし目標設定、実績を算定。

・二酸化炭素排出量削減(総量)に、LPGは含まれるが環境経営目標としない。

・項目1～4は、基準年度削減率、5.6は基準年度比で標記。

・一般廃棄物のうち、金属スクラップ・段ボールは再資源にあたるため実績値に反映させない値とする。

【2022年度実績】

二酸化炭素排出量削減、電気使用量削減、産業廃棄物の削減、コピー用紙使用量の削減、ガソリン使用量、目標を達成しました。エコロッカ製品サービスは、未達成でした。

6-2 中長期目標(2022年度実績・2023～2025年度目標)(長野工場・本社・各営業拠点含む)

環境経営目標		単位	2019年度 (基準年度)	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
				実績	目標	目標	目標
1	二酸化炭素排出量削減 (総量)	Kg-CO ² /年 ※1	1,557,512	1,379,265	1,432,911	1,401,761	1,370,611
				-11%	-8%	-10%	-12%
	1-1 電気使用量の削減	kWh/年	3,411,863	3,027,789	3,138,914	3,070,677	3,002,439
		Kg-CO ² /年	1,542,162	1,368,561	1,418,789	1,387,946	1,357,103
1-2 ガソリン・ 軽油使用料の 削減	L/年	6,617	4,614	6,087	5,955	5,823	
	Kg-CO ² /年	15,350	10,704	14,122	13,815	13,508	
2	一般廃棄物の削減	kg/年	2,261	747	2,103	2,058	1,990
				-67%	-7%	-9%	-12%
	産業廃棄物の削減	t/年	285	245	265	259	257
				-14%	-7%	-9%	-10%
3	水道水の削減	m ³ /年	6,726	1,637	6,255	6,053	5,919
				-76%	-7%	-10%	-12%
4	コピー用紙使用量の削減	枚/年	236,500	118,000	219,945	215,215	205,755
				-50%	-7%	-9%	-13%
5	エコロカ製品サービス	件/年	10	24	40	45	50
				240%	400%	450%	500%
6	工場周辺の環境整備	件/年	1	1	1	1	1
				100%	100%	100%	100%

※1：電気二酸化炭素実排出係数は、中部電力株式会社の0.000452t-CO²/kWhを引用。

- ・基準年度2019年とし目標設定、実績を算定(計画改定時に調整後排出係数引用予定)。
- ・二酸化炭素排出量削減(総量)に、LPGは含まれるが環境経営目標としない。
- ・項目1～4は、基準年度削減率、5.6は基準年度比で標記。
- ・一般廃棄物のうち、金属スクラップ・段ボールは再資源にあたるため実績値に反映させない値とする。

【中長期目標】

2022年度実績に於いて2023年度以降、中長期目標を既に達成している項目があるが、目標を下回らないよう努める。2023年度実績を基に中長期目標を変更していく。

6-3 2022年度目標・実績及2023年度目標(千葉工場)

判断…○：達成 X：未達成

環境経営目標	単位	2022年度 (基準年度)	2022年度			2023年度 目標	
			目標	実績	判定		
1	二酸化炭素排出量削減 (総量)	Kg-CO ² /年 ※1	234,404	234,404	234,404	—	232,060
				0%	0%		-1%
	1-1 電気使用量の削減	kWh/年	408,132	408,132	408,132	—	404,051
		Kg-CO ² /年	221,208	221,208	221,208		218,995
	1-2 ガソリン・ 軽油使用料の 削減	L/年	5,688	5,688	5,688	—	5,631
		Kg-CO ² /年	13,196	13,196	13,196		13,064
2	一般廃棄物の削減	kg/年		0	0	—	0
				0%	0%		0%
	産業廃棄物の削減	t/年		0	0	—	0
				0%	0%		0%
3	水道水の削減	m ³ /年	440	440	440	—	436
				0%	0%		-1%
4	コピー用紙使用量の削減	枚/年	4,000	4,000	4,000	—	3,920
				0%	0%		-2%
5	工場周辺の環境整備	件/年	1	0	0	—	1
				0%	0%		100%

※1：電気二酸化炭素実排出係数は、中国電力株式会社の0.000542t-CO²/kWhを引用。

- ・基準年度2022年とし目標設定、実績を算定。一般廃棄物、産業廃棄物の削減は、2023年度を基準年度とする。
- ・二酸化炭素排出量削減(総量)に、LPGは含まれるが環境経営目標としない。
- ・項目1～4は、基準年度削減率、5は基準年度比で標記。
- ・一般廃棄物のうち、金属スクラップ・段ボールは再資源にあたるため実績値に反映させない値とする。

【2022年度実績】

2022年度、一般廃棄物、産業廃棄物について明確な数値が無く2023年度の目標が不明確だが、削減意識、削減要素を考慮し実行を行う。

また、環境関連法規等の取りまとめを明確化し不備等を検討し、適切な環境関連法規を遂行する。

2022年度を基準年度とし2023年度目標を達成する為、周知徹底し削減手段を遂行し、目標達成に努める。

6-4 中長期目標(2022年度実績・2023～2025年度目標)(千葉工場)

環境経営目標		単位	2022年度 (基準年度)	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
				実績	目標	目標	目標
1	二酸化炭素排出量削減 (総量)	Kg-CO ² /年 ※1	234,404	234,404	232,060	227,372	222,684
				0%	-1%	-3%	-5%
	1-1 電気使用量の削減	kWh/年	408,132	408,132	404,051	395,888	387,725
		Kg-CO ² /年	221,208	221,208	218,995	214,571	210,147
1-2 ガソリン・ 軽油使用料の 削減	L/年	5,688	5,688	5,631	5,517	5,404	
	Kg-CO ² /年	13,196	13,196	13,064	12,800	12,536	
2	一般廃棄物の削減	kg/年		0	0	0	0
				0%	0%	0%	0%
	産業廃棄物の削減	t/年		0	0	0	0
				0%	0%	0%	0%
3	水道水の削減	m ³ /年	440	440	436	427	418
				0%	-1%	-3%	-5%
4	コピー用紙使用量の削減	枚/年	4,000	4,000	3,920	3,800	3,760
				0%	-2%	-5%	-6%
5	工場周辺の環境整備	件/年	1	0	1	1	1
				0%	100%	100%	100%

※1：電気二酸化炭素実排出係数は、中国電力株式会社の0.000542t-CO²/kWhを引用。

(計画改定時に調整後排出係数引用予定)。

- ・基準年度2022年とし目標設定、実績を算定。一般廃棄物、産業廃棄物の削減は、2023年度を基準年度とする。
- ・二酸化炭素排出量削減(総量)に、LPGは含まれるが環境経営目標としない。
- ・項目1～4は、基準年度削減率、5は基準年度比で標記。
- ・一般廃棄物のうち、金属スクラップ・段ボールは再資源にあたるため実績値に反映させない値とする。

【中長期目標】

M&Aにより合成木材、合成樹脂のコンパウンドの生産販売事業を拡大し全組織として環境経営目標を達成するよう全力を挙げる。

7. 環境目標達成のための計画と実績

7-1 環境目標達成のための計画と実績

弊社では、事業活動による基本的な二酸化炭素排出量・産廃物排出量・総排水量・コピー用紙使用量の削減を推進すると共に、環境商品を扱ううえでエコロッカ製品を販売することでCO₂削減に貢献できるとの考え方の下、エコアクション21活動を行う上で達成手段に重点を置き業務改善に取り組んでいます。

長野工場・本社・各営業拠点

目標	実施項目	実施結果と次年度取組
1. 電力の削減 ガソリンの削減	① 省エネマルチエアコンへの切替。 ② オンサイト型PPA太陽光発電設備設置。 ③ 生産の効率化、材料種調達変更。 ④ エコドライブ。	<ul style="list-style-type: none"> 省エネエアコンへの切替によって電力削減に繋がった。 太陽光発電は、2023年度運用実績を確認する。 生産コントロールと材料を直接使用できるものに変更し電力削減に繋がった。 Web会議が通例になり社用車の使用頻度が減りまた、コロナ収束に伴い、公共交通機関での利用が増えたことによりガソリン使用量削減に繋がった。 <p>◇ 太陽光発電の実施、節電、設備の空運転禁止を行う。</p>
2. 廃棄物の削減 コピー用紙削減 排水量削減	① 年間販売量をもとに同製品を連続生産し段取り替え等の不良を削減する。 ② 帳票等を電子媒体に移行する。 ③ 漏水処置。	<ul style="list-style-type: none"> 連続生産することにより立ち上げ不良が削減でき廃棄物減少に貢献できた。 長野工場での電子媒体移行に7割程度移行できコピー用紙削減に繋がった。 排水溝、地下ピットの漏水処理を行い水道水使用量が7割程度削減できた。 <p>◇ 電子媒体の更なる充実、無駄のない生産管理、節水を行う。</p>
3. エコロッカ製品 サービス	① 環境製品であるエコロッカ材を新規販売店を開拓する。	<ul style="list-style-type: none"> 新規販売店開拓目標35件に対し24件と未達成でした。 <p>◇ Web媒体を利用し個人顧客獲得。海外販売促進</p>

千葉工場

目標	実施項目	実施結果と次年度取組
1. 電力の削減 ガソリンの削減	① LED照明への切替。 ② フォークリフト省エネ運転。	<ul style="list-style-type: none"> LED照明切替完了。基準年度2022年度とし2023年度と比較する。 <p>◇ フォークリフト電動タイプに変更予定。フォークリフトの省エネ運転の徹底。生産管理の効率化</p>
2. 廃棄物の削減 コピー用紙削減 排水量削減	① 廃棄物排出量の把握。 ② 電子媒体の検討。 ③ 節水。	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物排出量を把握できず、2023年度排出量を把握し2024年度目標を定める。 長野工場を参考に電子媒体化の検討に入る。 <p>◇ 2023年度は、削減意識を持ち変化の準備を行う。</p>

8. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

- ①ビル用マルチエアコン リプレースバ暖マルチY設置(長野工場)
2021年度 7月導入



【2022年度実績】

	単位	旧システム	新システム
二酸化炭素排出量	Kg-CO ² /年	4,458	3,474
ガソリン換算	L/年	1,922	1,497
二酸化炭素排出量削減	Kg-CO ² /年		-984
ガソリン換算削減	L/年		-424

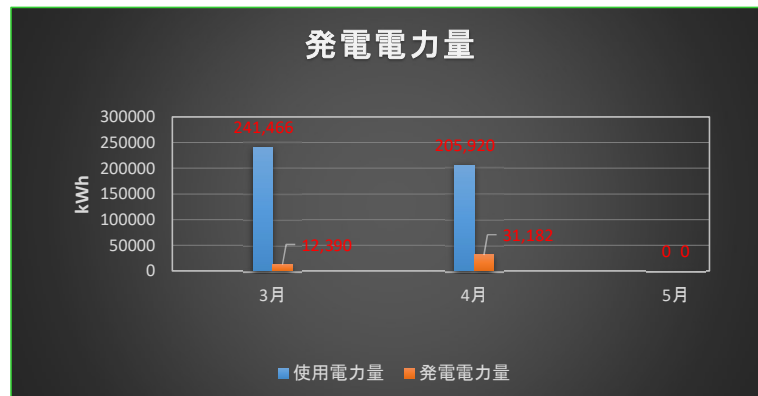
※電気二酸化炭素炭素実排出係数は、中部電力株式会社0.000452-CO²/kWhを引用。
2021年度、二酸化炭素排出量(総量) 1,455,099Kg-CO²/年
2022年度、二酸化炭素排出量(総量) 1,379,265Kg-CO²/年
年度削減量、75,834Kg-CO²/年 約2%年度削減に貢献した。
削減量は、少ないが更に、節電啓発を行い、削減に努めたい。

- ②オンサイト型PPA設置(長野工場)
2023年3月中旬運用開始

【2023年3月中旬～実績】

	単位	3月(15日間)	4月	5月
使用電力量	kWh	241,466	205,920	
発電電力量	kWh	12,390	31,182	
合計	kWh	253,856	237,102	
二酸化炭素排出量削減	Kg-CO ²	5,600	14,094	
発電電力量比	%	5	15	

※電気二酸化炭素炭素実排出係数は、中部電力株式会社0.000452-CO²/kWhを引用。



オンサイト型PPA設置①



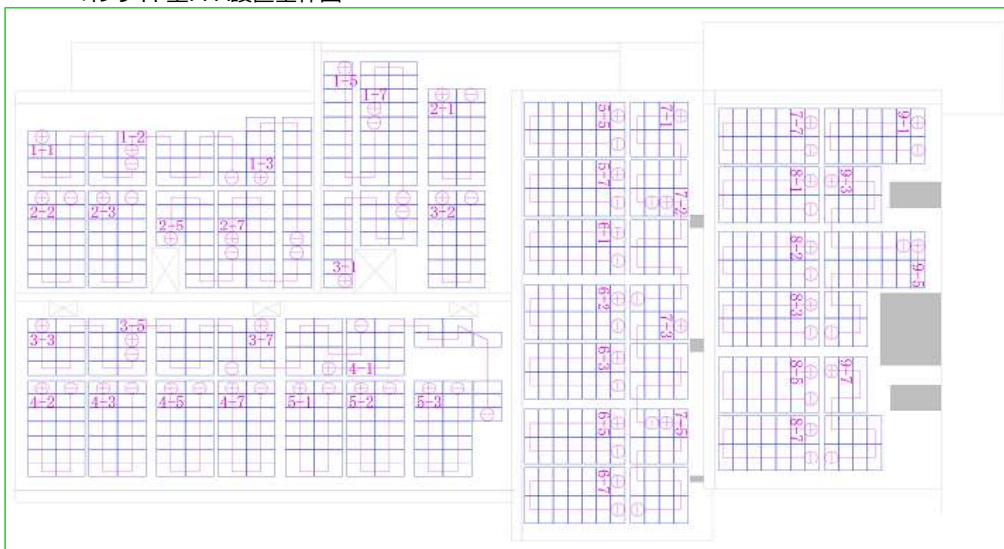
オンサイト型PPA設置②



オンサイト型PPA設置③



オンサイト型PPA設置全体図



発電仕様

モジュール 容量：616枚×455W=282.280kW

③省エネ照明 LED切替(千葉工場)
2022年度3月運用開始



【2022年度実績】

	単位	旧システム	新システム
二酸化炭素排出量	Kg-CO ² /年	7,976	4,267
ガソリン換算	L/年	3,438	1,839
二酸化炭素排出量削減	Kg-CO ² /年		-3,709
ガソリン換算削減	L/年		-1,599

※電気二酸化炭素炭素実排出係数は、中国電力株式会社0.000542-CO²/kWhを引用。
2022年度、二酸化炭素排出量(総量) 221,208Kg-CO²/年
年度削減量、3,709Kg-CO²/年 約1.7%年度削減に貢献した。
削減量は、少ないが更に、節電啓発を行い、削減に努めたい。

④節電啓発・一般廃棄物の分別表示

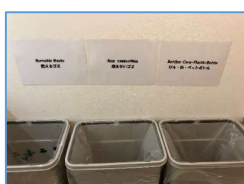


【エアコン設定温度表示パネル】
夏季冷房温度：27℃
冬季暖房温度：20℃

【電気消灯パネル】
不要時電気消灯



【電化製品つけばなしNo】
未使用時電源OFF



【一般廃棄物分別】
分別廃棄徹底



【再生紙の利用】
不要紙の裏面再利用

- ⑤環境経営達成のためリスク回避の為のBCP検討
事業継続方針、BCPの策定・運用体制を計画中。
実施事項とし従業員携帯カード配布、従業員連絡先リスト配布に留まる。
今後、事業継続にの具体案を検討し行う。

9. 環境関係法規などの遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無

主な環境関連法規制等の名称

法規名称	要求事項	確認内容	評価
産廃物処理法	産廃収集運搬・処理業者との契約、許可証写し 電子マニフェスト 産業廃棄物減量化実践協定	許可証の確認 申請書の提出	△
騒音・振動規制法	特定施設の届出 規制基準の順守	申請書の提出 基準確認	△
フロン排出抑制法	フロン類の適切な処理 回収・破壊の工程確認	基準確認	○
消防法	可燃物保管の指定数量以上の申請	申請書の提出	△
浄化槽法	指定検査機関の行う水質に関する検査を受けなければならない	確認試験の実施	△

千葉工場に於いて、関連法規の不備があり、現在、申請・委託定期契約を進めている。

10. 2022年度 代表者による全体の評価と見直し・指示

環境負荷及び取組状況 : マテリアルリサイクル原料を使用した製品そのものがSDGsに通づるもので相乗効果を期待する。
また、環境負荷の取組に於いて自己チェックにより更なる改善を望む。

環境経営目標・計画 : 同上

環境関連法規等遵守 : 環境関連法規の不備があり、急務の改善を指示。
社会的違法の問題はない。

苦情・要望(近隣・取引先) : 該当はありませんが、継続するよう努めて下さい。

その他 : オンサイト型PPA太陽光設備の稼働状況を確認し、
電気使用量削減に努める生産コントロールを行うこと。